

氏名(国籍)	フランシス オルグベンガ ファサヌ (ナイジェリア)		
学位の種類	博士 (国際政治経済学)		
学位記番号	博 甲 第 2766 号		
学位授与年月日	平成 14 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	国際政治経済学研究科		
学位論文題目	Instability Factors in Economic Growth and Private Investment Performance in Sub-Saharan Africa : The Case of Nigeria (サブサハラアフリカにおける民間投資と経済成長の不安定要因—ナイジェリアのケース)		
主査	筑波大学教授	Ph. D. (経済学)	山田直志
副査	筑波大学教授	Ph. D. (経済学)	ネアントロ・サーヴェドラ・リヴァノ
副査	筑波大学教授	Dr. Phil. (歴史学)	ハラルド・クラインシュミット
副査	筑波大学助教授	Ph. D. (経済学)	川勝浩之
副査	筑波大学講師	Ph. D. (経済学)	姜 晟 振

### 論文の内容の要旨

本論文は、ポスト植民地期におけるサブ・サハラ・アフリカ諸国 (Sub-Saharan African countries) の経済成長と経済発展の決定要因について新たな解釈を試みたものである。著者はとくに、当該期におけるサブ・サハラ・アフリカ諸国を特徴づけてきた社会的・政治的不安定性、および制度的不安定性という環境下における経済成長と民間投資行動の説明に力点をおいている。

著者は本論文において、政治経済学的な分析手法、理論的モデルの構築、実証的データの統計的処理という3つの手法を統合的に活用することを目指している。また、サブ・サハラ・アフリカ諸国のなかでも大国であり、また統計的データが得やすいナイジェリアを主な対象とし、計量的方法とダイナミックな可算性一般均衡モデル (CGE, Computable General Equilibrium Model) とを結合させた分析枠組を用いている。

著者によれば、後者のCGEモデルの採用は、政治的・社会的、制度的不安定性のうち、いずれの要因がどのように経済成長過程や投資過程に連動しているかを明らかにするために不可欠である。このCGEモデルに関して、本論文は、政治経済構造の内部化、政治・社会的な環境と制度的環境に特有の不安定性コストを経済的エージェント (生産者、消費者、投資家など) が内部化させ得るような異時点の投資や消費行動を特定化し、パラメータ化しており、本論文の一つの貢献といえる。さらに本論文では、通常用いられる比較静学的CGEモデルより、ダイナミックなCGEモデルを採用し、決定作成過程における社会的・政治的、制度的な不安定要因から生ずるコストを、経済的エージェントのミクロ的基礎として内部化している。これらの諸点が本論文の方法的特徴である。

アフリカの経済成長理論や経済発展に伴う諸問題を扱った文献は数多く存在しているが、著者はそれらの文献に精通しており、とくに本論の展開に沿いつつ、経済成長に関連した文献のレビューを丹念に行っている。それらの理論のなかには、古典派、新古典派のほか特に最近注目されている内生的成長モデルが含まれる。著者はこれらを踏まえ、とくに貯蓄と投資の役割を重要視した独自のモデルを展開している。特記すべき点は、理論的な処理の困難とされる資源移動の問題の処理にあり、この点は、対外債務のダイナミクス、制度や政府政策の役割、外部的ショックの影響といった問題として適切に議論されている。

本研究における計量分析とCGE分析とによって導き出された有用な結論は以下の通りである。

1. サブ・サハラ・アフリカ諸国における過去30年間にわたる景気停滞と低い民間投資率は、マクロ経済政策の不確実性と不安定な政治・社会的、制度的環境のコンビネーションから説明できる。
2. 不安定な環境が経済成長に連動するメカニズムは、不安定性が国内インセンティブの構造や相対価格の上に歪曲的な影響を与えることによって起こり、そのメカニズムは逐次、生産、消費、投資決定における経済エージェントの行動に影響を与えている。

また、本論文の重要な政策的インプリケーションは以下の通りである。

1. 制度的脆弱性と政治・社会的不安定性という問題点は、早急に議論されるべきである。とくに、財産権の維持、契約履行の強制性は強化されるべきである。
2. 経済の競争性を高めるためには、新たなビジネス環境の中心をなす私企業の促進が必要である。とくに、政治エリートと地方のビジネス階級との間の伝統的な敵対関係は解消されるべきである。
3. 政府投資は民間投資の利益を直接増進するように向けられることが必要である。インフラの改善や人的資源開発は政府投資が効率的に行われる分野の例である。

## 審査の結果の要旨

ポスト植民地期におけるサブ・サハラ・アフリカ地域の経済開発が軌道に乗らないという経験は、既存の経済理論に挑戦するものであった。ラテン・アメリカやアジアなど世界の他の開発途上地域は、少なくとも高い経済成長の一時期を有している。しかし、大半のアフリカ経済は一時的にせよ成長の一般のプロセスを辿ったことはない。そこには世界で最も貧しい諸国が存在しているのである。

本論文の意義は、所得が低い国々は成長が早いという新古典経済学の成長理論に対する一つの挑戦であり、他方では、既存のデータを適切に解釈する手法を欠落させている政治経済学者への挑戦にあるとすることができる。また、方法的にも、計量的分析の標準的な手法とともに、最近の成長理論で利用されている手法や、政治経済学的分析において活用されている諸概念を巧みに用いた優れた研究である。

本論文の重要な貢献は、方法としての可算性一般均衡 (CGE) モデル (Computable General Equilibrium Model) の採用であり、CGEモデルのダイナミックな応用例として成功している。本論文は、一般的には成長の政治経済学に対して、具体的にはアフリカの開発経験の理解について、新鮮で、価値ある貢献を行っていると認められる。

最も顕著で具体的な貢献は、多くのサブ・サハラ・アフリカ諸国における過去30年間の経験である民間投資の低率と経済停滞という状況が、マクロ経済政策の不確実性と、不安定な政治・社会的、制度的環境とのコンビネーションによって説明できるとされている点である。したがって、これら諸国の経済発展に必要な措置として、本論文が提示する重要な政策的インプリケーションはより説得力あるものとなっている。

本論文は方法的に独創的な試みであるだけに、とくに成長の政治経済学と政策問題に関連して、将来的に価値ある成果を生み出す潜在性を有しているが、それだけに、アフリカ経済について、より質の高いデータを収集する必要性を示しており、それによって初めて同様の研究が刺激されるであろう。

総じて、本論文はサブ・サハラ・アフリカにおける経済発展の説明について独創性の高いモデルを開発し、経済成長に関する政治経済学の理論的發展に貢献するものである。また、政策的にも優れた示唆を与えている。

よって、著者は博士 (国際政治経済学) の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。